

第5回 多言語対応・ICT化推進フォーラム ～人と技術で伝える、伝わる～ リオデジャネイロ2016大会報告 【学生から見たリオ2016大会レポート】

発表者：東京外語大学 Rio to Tokyo 2020 学生ボランティアチーム 山下 さおり氏

本日は、通訳ボランティアとしての活動で学んだことから、2020年の東京大会に向けた外国人の受け入れ、おもてなしに役立ちそうなことをお話いたします。

まずボランティアの概要ですが、私は大学のStudy Tourという名目で通訳ボランティアに参加しました。同じ大学からオリンピックには17名、パラリンピックには9名の学生が参加しました。ボランティア活動中は、7つの会場に振り分けられて、OBS・オリンピック放送機構の通訳、海外メディアが日本人選手にインタビューする際の通訳、あとはアクセスコントロールとい



て、関係者でも会場の中に入れる所と入れない所があり、それを全員が身に着けているIDカードの番号で振り分けているので、入り口でそれをチェックする仕事や、ドーピングコントロールの際の補助、会場案内などをしていました。配属された会場によってかなり仕事内容が異なっており、例えばMPC、メインプレスセンターで働いていた人達は、メディアの人の対応ばかりで通訳はあまりしなかったということでした。



このような活動から学んだことが沢山あったのですが、その中から、どこの会場に配属された人も言っていた「積極性」「異文化理解」「事前準備の大切さ」について3つほどお話させていただきます。

まずは、価値観の違うマネージャーとのすれ違いについてです。私は、リオセントロという、卓球、バドミントン、ボクシング、重量挙げの会場に配属されていたのですが、日本人は人数に余裕を持って配属されており、仕事がなく時間を持て余している人がいる状況でした。自分達なりに、できる仕事はあるだろうと考えてはいたのですが、ただでさえ寝不足でピリピリしているマネージャー達に「仕事をください」と言ったら邪魔になってしまうのではないかと思います、とりあえず指示を待つ消極的な姿勢になっていました。しかしそれがマネージャー達からしてみたら、自分達から何も言っておなくて日本人は何を考えているか分からない、やる気が無いのかと思われるという、すれ違いが生じてしまいました。結局和解はできたのですが、これにより、日本人が持つ「空気を読む」という文化は、海外では通じず、積極的に自己アピールをしないと相手に伝わらないということ、きちんと言葉で表さないと通じないということを実感することができました。4年後の東京大会では、外国人のボランティアの方が沢山いらっしゃると思うので、今度は日本人がマジョリティになるのですが、一緒に働くにあたって、お互いの価値観が正しいと思わずに、異文化を受け入れながら柔軟に対応できたら良いのではないかと思います。

2つ目は事前準備についてです。私は自分なりに準備をしてみたつもりだったのですが、実践を伴う練習をしていなかったことが最大の反省点でした。事前準備として具体的には、大学受験以来の勘を取り戻すために英検を目標に勉強をしました。英検ははっきりと合否を突きつけられるのでモチベーションも保てましたし、結構勉強できたと思えました。その後は新聞の五輪関係の記事を集めて、選手のインタビューの部分を英訳したり、福原選手の通訳を頼まれてからは、インターネットで今までのインタビューの傾向を調べて英訳したりということをしていました。これらの準備は、やっていないよりはやっていた方が良かったと思えたのですが、実際の通訳の場ではパニックになってしまい、上手くできなかつたので、やはり机に座って安心した状態で通訳をするのと、実際に目の前に選手や外国人のメディアの方がいらっしゃる状態で通訳をするのは、緊張感も、

求められる頭の回転のスピードも全く違うということを思い知りました。これらのことから、事前準備と言っても実際に対面で使ってみないと分からないこともあるので、一発で本番を迎えるのではなく、実践的な演習や試験をしておく必要があると思いました。

3つ目はおもてなしについてです。ブラジル人は会場外でも優しくしてくれる方が多かったので、これも日本が真似をしていけたらと思ったので、2つほどエピソードをお話します。まず1つ目は、夜中のシフトの後に帰る時のことなのですが、バス停から宿舎まで歩かなければいけなくて、暗い中女子2人で歩いて帰るのは不安だったので、少し大きい駅でタクシーを呼ぼうとしていました。そうしたら、観戦帰りであろうブラジル人の家族が、片言の英語とほとんどポルトガル語で話しかけてきて、とりあえず手助けをしてくれようとしたのがとても嬉しかった記憶があります。私はポルトガル語を勉強しているので、事情を説明したら、タクシーを呼んでくれて、運転手の方に行き先まで伝えてくれました。正直、夜中の12時を過ぎてバス停に2人での不安だったので、助かったということがあります。あと1つはスーパーでのことなのですが、友達と買い物をしていたら、おそらく英語を勉強しているであろう中高生くらいの女の子が、「何か探しているの？何でも聞いてね」と話しかけてきてくれました。私が中高生の時は外国人に話しかける勇気なんてなかったので、本当に驚いたし、すごく良い人だなと思いました。

今回ブラジルに行くにあたって、治安や渡航費のことなど、懸念もあったのですが、このような現地の人達の優しさに出会えたことで、本当にリオに行って良かった、ブラジルに行って良かったと心から思うことができました。同時に、2020年に多くの外国人を迎える側になるにあたって、今度は外国の方々に、東京に来て良かった、日本に来て良かったとっていただきたいと思うし、さらに欲を言えば、また日本に来たいとっていただきたいなと思います。その為には、素晴らしい施設や観光地に加えて、人とのつながりが不可欠だと思います。自分を含め、日本人はシャイな人が多いと思いますが、2020年と言わず今から、語学力などはあまり気にせず、町中の外国人に小さなおもてなしをしていけたら良いのではないかと思います。

まとめとしては、外国人と働く際や、町中で迷っている人を見た時に、積極的に動くということ。あとは、当たり前のことですが、日本の価値観が当然ではないという異文化理解の姿勢を見せること、実践を伴った準備をするということで、外国人の方にも喜んで頂けるのではないかなと思います。

第5回 多言語対応・ICT化推進フォーラム ～人と技術で伝える、伝わる～

参考資料配布：<http://www.2020games.metro.tokyo.jp/multilingual/council/index.html#m05>